

令和5年度 第2回千歳市廃棄物減量等推進審議会 結果概要

日時	令和5年10月25日(水)	開始	10:00	終了	11:30
場所	千歳市役所第2庁舎 1階 会議室1・2				
出席者数	委員16名中15名出席	会議の成立	成立		
	途中出席者	なし			
	途中退席者	1名			
事務局出席者	千田市民環境部長、田中環境センター長 【廃棄物管理課】 太田廃棄物管理課長、浦川総務係長、本田総務係主任、稲垣総務係主任 前本建設計画係長、富田施設係長 【廃棄物対策課】 片山廃棄物対策課長、廣田廃棄物対策係長、長崎資源循環推進係長				
傍聴者	なし				
報道関係者	なし				

会議録(発言要旨) 別添のとおり

令和5年度 第2回千歳市廃棄物減量等推進審議会 会議録（発言要旨）

1 開 会

会長挨拶

<要 旨>

大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

段々寒くなりまして、しかしながらまだコロナの影響が終わったわけではない。

本日は廃棄物処理事業概要の確認やごみの分別について皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っております。

2 議 事

(1) 報告事項

① 令和5年度廃棄物処理事業概要について

事務局より資料1に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委 員)

昨年度の結果が色々出ていて、計画を達成するための目標値は理解するが、どのように廃棄物を減らしていくのかという方策はあるのか。

(事務局)

引き続き啓発を中心に市民に向けて呼びかけていく。具体的には広報ちとせでシリーズ化されている美々ちゃんコーナーへの掲載や環境センター施設見学に来る市民へ発信を続けていく。

(委 員)

今後、目標値を達成するには啓発以外のアイデアも必要になってくると考えている。

(会 長)

リサイクル量というのは具体的にどのようなことを指しますか。リサイクルと再資源化の違いはあるのか。

(事務局)

基本的には同じことであります。リサイクル量については民間施設でのリサイクル量も含めて計算している。

(委員)

これまでの会議の内容は存じ上げないが、基本のごみを減量するという点に関して具体的にどのようにごみを減量していこうと考えているのか、また、家庭から出るごみが減ることではないのではないかと考えている。今後、増えていくと考える中で啓発活動だけではなくて、目に見える形での施策が必要なのではないかと考える。リサイクル量を増やすならばリサイクルを行う施設、リサイクルしやすい環境を整えることが必要と考える。

(委員)

令和4年度のリサイクル率 26.2%が北海道の各市町村の中でどれくらいのレベルにあるのか。

(事務局)

現在、手持ちの資料がないためお示しすることはできないが、今後調べて皆さんにお示しする。

(委員)

家庭用廃棄物の一人当たりの排出量は、やや減少傾向にあるが、一般廃棄物における事業系一般廃棄物の割合が大きいと感じている。

(事務局)

事業系一般廃棄物については新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、事業が再開されてきたことから排出量が上昇しているものと考えている。今後は排出量等の推移を見ながら事業系一般廃棄物処理に関する手数料の改定も考えていかなければならない。その時には本審議会の中で皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。

(事務局)

貴重なご意見をいただきありがとうございます。繰り返しになりますが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響、数字を見ていただければお分かりかと思うのですが、想定を超えた結果となっている。来年4月からはごみの分別区分が変更となることから市民の皆様には丁寧に説明していきたいと考えている。この変更に伴い今後は統計の出し方も変わってくると考えている。しかし、我々は行政ですので今まで積み重ねてきたことを尊重しながら見ていかなければならない。今後も様々な議題について審議をしていただくこととなりますがよろしくお願ひします。

- ② 焼却施設の移転に伴う家庭ごみ分別区分の一部品目変更に係る市民周知の状況報告について

事務局より資料2に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委員)

今まで5回説明会をされたと思うのですが、市民から寄せられた代表的な質問を教えてください。

(事務局)

これまでの5回の開催で1回あたり約10～20名程度の出席があった。その中で、普段の分別に関わる質問が多かった。例えば、サランラップの分別はどうしたらいいのかといった具体的な製品名を挙げて、その分別方法を問われた。これについては、今後は燃やせるごみとして分別していただきたい旨回答している。また、普段使っているごみ袋を買いだめしているが問題ないのかといった質問もあった。これに関しては、ごみ有料化以降に購入したごみ袋であれば引き続き使用することができると回答している。最後にごみ処理の手数料についてはどうなるのかという質問があったが、焼却処理場の移転に伴う料金の変更はなしと回答している。

(会長)

分別の周知に関しては、だれが見てもわかるようなものに工夫してもらいたい。

(事務局)

これからも説明会が続いていくが、説明会の中で寄せられた質問、それに対する市の回答については取りまとめを行い、ある程度まとまった段階でホームページやSNSを活用して周知していく。

- ③ 協和地区の産業廃棄物最終処分場建設計画について

事務局より資料3に基づき説明。報告済みとなった。

《質疑等》

(委員)

多くの市民の方には直接的に関係のない話だとは思いますが、東千歳地区は農業振興地域になっており、野菜等の食物を生産している。このような地域に最終処分場の建設することはそぐわないと考えている。

(委員)

資料3に最終処分場(安定管理型)と記載されているが、最終処分場は安定型と管理

型があり、安定型は無害のものを処分し、管理型は有害の可能性のあるものを処分する。
これは安定型、管理型両方を建設するということでよろしいのか。

(事務局)

現在、事業者が計画しているのは管理型の最終処分場である。この最終処分場で発生する処理水については、浄化した後にケヌフチ川に放流すると聞いている。

(会 長)

計画されている最終処分場が管理型であるならば、安定という言葉は必要ないのではないか。

(事務局)

安定型品目の廃棄物と管理型品目の廃棄物を埋め立てる計画となっているので安定管理型と表記している。

(委 員)

それであれば、「安定・管理型」や「安定型・管理型」という表記が適切ではないか。

(会 長)

今後は正式な表記をするようにお願いします。

3 閉 会

(会 長)

事務局から何か連絡はあるか。

(事務局)

次回の審議会について、来年1月から2月頃を考えている。議案は根志越にある新焼却処理場の視察などを予定している。

(会 長)

以上をもって、第2回千歳市廃棄物減量等推進審議会を閉会する。